

[演題 3]

着物着付け指導者における紐類の締め付け強さについて

～ 一般的着付け手法における紐圧力の変化 ～

大園 彩寧¹⁾, 松村 裕奈¹⁾, 古田 恒輔²⁾

1) 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科 4 年生

2) 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科

1. はじめに

一般的な着付け(立位姿勢における着付け)では、指導教本に基づき多種の紐類を用いて着付けが行われるが、これらの指導教本において客観的な締め付け程度が示されておらず、指導も経験的な表現(指一本分の隙間をつくるなど)が多い。また、着付け師によっても締め付けの程度にばらつきがあるとも考えられた。さらに、着付け終了時には全体としてどの程度締め付けているのかもよくわかっておらず、締め付けの再現性についても言及したものはなかった。

今回は、京都きもの学院京都本校の協力を得て、専任講師における着付けの段階ごとの紐の締め付け力、指導者ごとの締め付け力の差について検討したので報告する。

2. 対象と方法

今回の研究では、京都きもの学院京都本校の専任講師 10 名を被験者として、同一モデルに着物(振袖)を教本に基づく手法で着せた。

対象となった京都きもの学院の着付け講師の着付け指導年数は平均 10.7 年、最短 2 年、最長 30 年であった。年齢は平均 56.4 歳 $\pm$ 9.4 で 10 名全員女性である。

(1) 計測手順

圧力計測は、通常の着付け講習と同様に同一のモデルに着付けを 1 回行い、以下の着付けの段階ごとに紐類の締め付け力を計測し、記録した。圧力データは全て締め込んだ後、吸気時に計測した。

- ① モデルに長襦袢を着せる。
- ② 胸下に胸紐を結ぶ。
- ③ 伊達締め(両面テープ式)を巻く。
- ④ 振袖を着せ、腰紐を骨盤の高さ程度で結ぶ。
- ⑤ 胸紐を結ぶ。
- ⑥ 伊達締めに胸紐の上から巻く。
- ⑦ 前板(ゴム付き)を巻く。
- ⑧ 振袖の上から帯を巻き、一結びする。
- ⑨ 三重紐を結ぶ。
- ⑩ 帯枕の紐を結ぶ。
- ⑪ 帯あげを整える。

- ⑫ 帯の上から帯締めを締める。

(2) 倫理審査

この研究は、神戸学院大学総合リハビリテーション学部人の倫理審査委員会にて許可されている。(承認番号：総倫 22-15) また、京都きもの学院京都本校倫理審査委員会においても許可された。(承認番号：京き学 2022001)

3. 結果

紐ごとに圧力を計測した結果、胸紐を要因とするバスト下の圧力が高くなるゾーンと腰紐と考えられる腰骨上のゾーンに帯状の圧発生地帯が観察できた(図-1)。このことから、胸紐を要因とするバスト下の帯状の圧力発生を「胸紐ライン」腰あたりを「腰紐ライン」と名付けてそれぞれ4分割した。

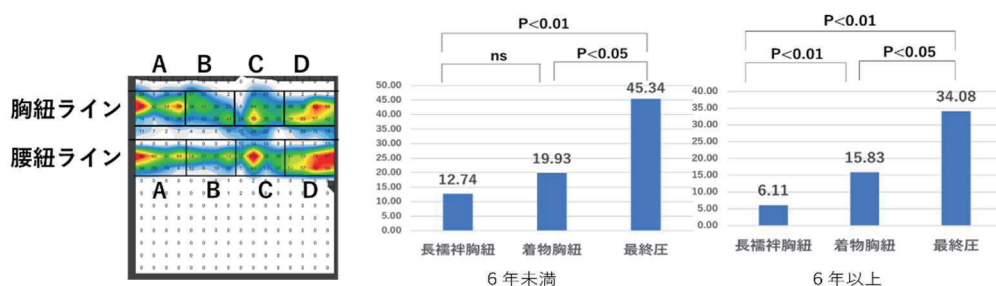


図-1 胸紐、腰紐ゾーン

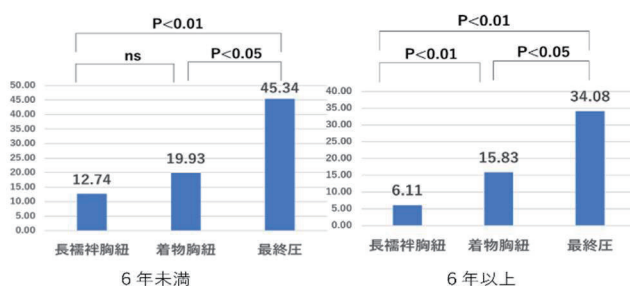


図-2 指導経験年数別胸紐の圧比較

胸紐の圧比較では、経験年数6年未満で長襦袢と着物では差が無かったが、最終圧と長襦袢、着物では危険率1%、5%で有意な差を認めた。6年以上では、段階的に締め付けており、長襦袢、着物、最終圧のすべてに有意な差を認めた。

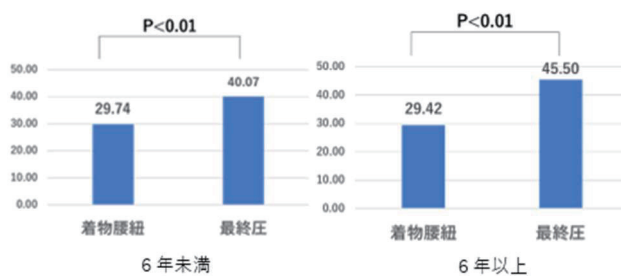


図-3 指導経験年数別腰紐の圧比較

腰紐の圧比較では、6年未満、6年以上共に着物腰紐と最終圧の間で危険率1%で有意な差が見られた。

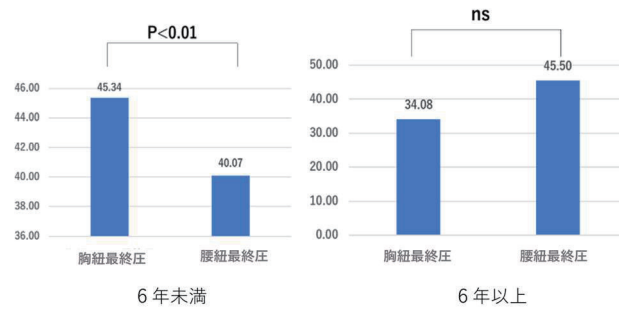


図-4 指導経験年数別胸紐、腰紐の最終圧比較

胸紐と腰紐の最終圧の比較では、経験年数6年未満では危険率1%で胸紐が高くなり、腰紐よりも胸紐を強く締めていた。6年以上では、有意な差はみられなかった。このことから6年以上は胸紐、腰紐とも同じ様に締めていると言えた。

4. 考察

経験年数に関係なく胸紐では着物と最終圧の間に有意な差が見られた。腰紐では着物腰紐と最終圧で明らかな締め分けが見られた。胸紐と腰紐の締め付け圧の比較では、6年未満では、胸紐が強く締められていた。胸紐は、襟を整え固定する役割があり、6年未満は着崩れを防ぐ目的で胸紐を強く締め付けていたと考えられた。一方、6年以上では、長襦袢、着物、最終と段階的に締め付けており、長襦袢胸紐を緩くしても、上から着物胸紐を強く結ぶことで着崩れを防ぐことが出来るという事を経験として理解していると考えられた。このように、6年以上の講師では各々の紐の役割を経験知として理解しており、その結果、紐ごとの「締め分け」が行われたと考えられた。

5. 今後について

着付け師にとっても、このような圧発生は想像したことがなく、経験知的な指導が主であったことから、今回の圧力計測によって圧力に見える化が行われ、「締め付け力のイメージ」ができ、「圧発生を見越した着付け」の意識付けが行えた。

今後は、対象とする被験者を講師だけでなく受講生に広げ、着付け経験による影響の比較を行いたいと考えている。

引用文献

- 1) 水島恭愛,武田富江編：きもの教本 [技術編 (初級・中級)]. 財団法人 民族衣裳文化普及協会：2010.
- 2) 水島恭愛,武田富江編：きもの教本 [技術・基礎編]. 財団法人 民族衣裳文化普及協会：2008.